

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION

Vol. 45/No.2 SUMMER 2024

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

SEEING PEOPLE OFF ISSUE



岡田順三さんの業績

Junzo Okada Passes

イベントレポート

Event Reports

記録報告

New Japan/World Records

タグ&リリース功労者表彰

Tag & Release Award Winners

and more

ユダヤ人の歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリが、10年前のベストセラー「サピエンス全史」で述べていたように、私たちは壮大な歴史の実験の一巡めにいて、圧倒的に多数のことが初めての体験です。資本主義の成長、国家のあり方の変容、家族像の変化、情報の流通……そして、趣味としての釣りのありかたも例外ではありません。2度の世界大戦に続く経済復興は、典型的には中高年の楽しみだった釣りを若年層にも魅力的なものとして提示しました。日本では70年代以降「ルアー＆フライ」のブームが到来し、さまざまな伝統的釣り方も細分化と深化が進みました。その大きな流れの延長線上に、ジャパングেমフィッシュ協会の設立と拡大があります。

やがて創立50周年を迎えようというジャパングেমフィッシュ協会ですが、創立時の副会長、そして会長、名誉会長として長らく務められた岡田順三さんが先頃お亡くなりになりました。創立者たちの思いを汲み、新しい時代の釣りをみつめたビジョンに基づき、さらなる一歩を進める時です。スタートアップして成功を収めた企業・団体にとって、承継はつねに大きな問題ですが、私たちは釣り人として、すばらしいモットーの下に集まっています。「いい釣りをいつまでも」。この言葉を、現代の状況に即したアクションに変換して積極的に行動していくことこそ、ジャパングেমフィッシュ協会の方向性であると信じます。皆さまのご協力を、よろしくお願いいたします！



日本の釣りを、もっと良くしたいんだよ！

JGFA名誉会長 岡田順三さんを偲んで

ジャパンゲームフィッシュ協会の創立者の1人であり、名誉会長を勤めていた岡田順三さんは、

2024年4月13日、闘病むなしく永眠されました。

学生時代から釣りに親しみ、磯釣りが全盛を迎えた1970年代初期から大物釣り師として頭角を現した岡田順三さんは、

1000ポンド (453kg) オーバーのカジキを釣った最初の日本人として世界に知られており、

アマチュアの理想像を追求・提唱した才能あふれるジャーナリストでもありました。

岡田さんをよく知るお2人から何う、楽しい話。



外房で2012年に釣り上げたヒラメ。6.15kgあり、10ポンドオーバー・クラブ入りした魚

JGFA (以下JG) 岡田順三さんは、協会の設立に大きく関与され、晩年までずっと活発にフィールドに出ていらっしゃいました。今日の集まりは、岡田さんと親しくおつきあいされたお2人に、楽しい思い出話を伺いたいと思って設定したものです。なにとぞよろしくお願いします。

石井宏尚 (以下HI) こちらこそ。

神山明 (以下AK) お願いします。

JG 岡田さんとは、協会に加わってからビッグゲームの人として知ったので、それ以前のお姿などは存じ上げないのです。いちばん昔からお知り合いなのは、JGFA周辺のお仲間ではなかったですか？

HI 秋山勇さんという方です。三宅のカジキ釣り大会にも参加されていましたが、彼は深場釣りが好きで、JGFAの役員にはならなかったのですが、私が JGFAに入ったのも秋山さんご紹介

介。副会長だった西川さんが逝去されたときも、「君がやればいい」という彼の発言を受け、私がおその役を仰せつかったというわけですね。大西元会長の「2年間だけやってよ」という最初の言葉と違って、20年近くやることになりましたが……。

JG 秋山さんは、もともと大西さんとおつきあいがあったんですね。

HI そうです、同じクラブでした。私はもともと、ルアーでスズキ釣りをやっていた、千葉では古山輝男さんもさかんに活動していました。秋山さんとはじめて会ったのは、吉祥寺の丸勝という釣具屋さんでしたよ。

JG 当時は、丸勝さんは最先端の？

HI いいえ、一般的なお店でしたが、それからどんどんスポーツフィッシングのほうに力を入れられました。JGFAのことに話を戻すと、岡田さんのお自宅にあった、狭い「秘密の部屋」がさいしょの事務所でしたね。地下に、水を汲むところがあったんです。何かということそこに釣り仲間が集まって、話をしていました。その後は、環八沿いのビルにJGFA事務所の部屋を借りました。このあたりから、事務局に長年勤務された葛西美津子さんもご存じのはずですよ。その後は、渋谷にあったサンスイの上の階、続いて恵比寿駅に近い広い事務所。そしていまのフィッシング会館4階に至るという変遷です。

JG では、現在は5代目の事務所なんですね。岡田建設の秘密部屋では、いろんな密議が醸されていたんでしょうね。

HI 磯釣り分野のお仲間もいましたよ。途中で抜けられてしまいましたが。

JG 岡田順三さんご自身のクラブは「マーメイド・アングラーズクラブ」ですが、最初からいろんな種の釣りを取り込んで、アマチュアの利益を代弁する上部団体を作ろうという意図をお持ちだったのでしょうか？

AK そうだと思います。

HI 順ちゃんが最初に熱中したのは石鯛釣りでしょう。でも中年にさしかかって、磯の上を飛んで渡るようなことはできにくくなってきた。そんな時にハワイで、ビッグゲームをやっていた大西さん、西川さんらと会ったわけですね。岡田さんのビルでは大人数の会合が難しかったので、芝にある仏教伝道会館の会議室をよく使わせてもらいました。また、日比谷公園前の国会通りにはシーボニアメイズクラブという会員制クラブがあって、そこも活用しました。会議をやって、その後にお酒も楽しめるということとで便利でしたね。

JG 重厚な雰囲気、大企業のエグゼクティブが集まられるような雰囲気ですね。岡田さんとお住まいも近いと伺っている神山さんは、どのような経緯でマーメイド・アングラーズクラブに入られたのですか？

AK 突然入れられたという感じなんです。岡田さんの次男と私の長女は幼稚園が同じで、自宅に遊びに来なさいよと招待されて伺ったら、見たこともないルアーが部屋にごろごろ転がっていて、「あつ、ハリがあつて危ないからあのへんは歩いたらダメだよ」と言われました。

JG フックを研いだり、改造したりなさっていたんでしょうね。

AK 岡田さんがはじめてハワイに連れて行ってくれたのは12月だったと思いますが、フネを出したら130ポンドくらいのカジキが釣れてしまって「おもしろいな」と感じました。

HI 順ちゃんの作戦だったんじゃないですか？

AK かもしれないです。その後も、朝早くから冬の堤防に連れて行かれて、ルアーを投げてひたすら投げて巻く、という苦行みたいなことをやらされましたね。ズボン下とか長靴とか、装備類は岡田さんが買ってきてくれて支給です。古参メンバーの相原元司さんたちがキャンプしているところに暖を取りに行つて、人心地ついたらまた釣り場に帰る、とか。

HI カジキ釣り大会がまだ三宅島で行われている頃とかは、深夜3時半くらいには起き出してきて、ガタガタ道具をいじりはじめる人でした。

AK いても立ってもいられないんですね。大きい子供。

HI どこに行ってもそうなんです。下田の実行委員長をやってくれている渡邊清一郎さんのところにも、約束した日の真っ暗なときに現れて「釣り、行こうよ…」って言うんですって。彼は磯釣りからはじめたから、そうなんじゃないでしょうか？

JG 夜討ち朝駆けというか、まず場所の確保からはじまるわけですね。岡田さんは、学釣連(全日本学生釣魚連盟)に所属している頃から熱かったと漏れ伺っていますが……。

HI JGFAを始めてから、学釣連の昔話を聞いたことはないですよ、他の人から「岡田さんはすごかった」という噂は聞きましたが、スパッとスポーツフィッシングのほうに舵を切ったんだと思います。それにしても、会長に就任されたときの責任感はいへ



岡田さんの盟友、石井宏尚さん。副会長から現在は相談役



神山明さん。港区のご近所さん、財務委員長を長くお勤め頂き、JIBTでも「陸の顔役」

んなものだったと推察します。まだ西川さんがご存命だった頃、大西会長をサポートしていっしょに頑張っていこうという合意がありました。

JG それぞれ得意な分野で、アマチュアらしい釣りをもり立てていこうということですね。

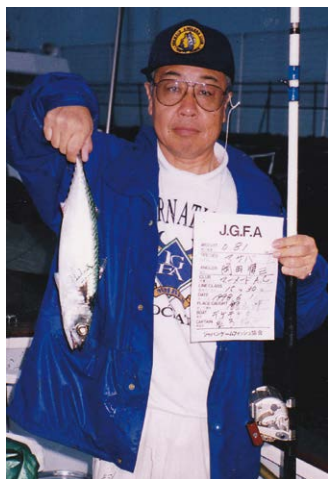
HI ハワイで3人が顔を合わせたわけですが、実際のところJGFA創立の立役者は西川さんなんです。西川さんのお友達で、スタンレー・ハラさんという日系の上院議員が現地にいらっしやいましたが、彼はほんとうによくしてくれたんです。HIBT(ハワイ国際カジキ釣り大会)は招待選手しか参加できない仕組みで、日本から参戦するなど難しかったのですが、ハラさんの仲介で出場できるようになった。

JG てっきり私は、大西さんがリーダーシップとカリスマ性を発揮し、多様な釣り人を集めて協会を作ったんだと思い込んでいました。

HI 大西さんはボートを熱心に作っていらつしやって、そちらがいちばん楽しかった。岡田さんは釣りがメインなので、カジキを釣るとなると漁船チャーター派なんです。結果として、とてもよい、バランスの取れた組織作りができました。

JG 漁師さんや遊漁船の人たちにちゃんと気を遣わないと、うまく行かなかったでしょうね。

HI 大西さんが三宅島に自艇で出かけたとき、帰りが荒れてしまって、フネを置いていったん帰京したことがありますが、島



マサバもオールタックル記録で申請



ブラックバス釣りにも熱中した時代があったのだ！



1988年、ハワイ島コナでの一コマ。大西さん、西川さん、スタンレー・ハラさん、そしてピーター・フィジアンさんとともに



リザード・アイランド沖で釣った1245ポンド(564.72kg)のシロカジキ。
岡田さんの誇りだった



何度目の参戦になるだろう、2009年のHIBTにて



カイルアコナの名スキッパー、マーリン・パーカー(本名)の「マーリン・マジック」にて

で問題になってしまっ。東京の連中が勝手に来て、あいさつもなしに置いていったという気持ちでしょう、もっともなこと。それに対して順ちゃんは磯釣りの頃から地元の業者さんを使っていたから、話が通りやすいですね。

JG 西川さんはどのような立ち位置にいらしたんでしょうか？

HI 私よりも上でしたが、一回りとまでは行かないお年でした。知り合った頃はすでに心臓が悪かったので、現場の釣りをやるというよりはむしろ世話役、調整役。黒子ですね。「釣りばかりやっているといけないよ、いろんな方向に目を向けたほうがいい」と、よくおっしゃっていました。飲み物、食べ物、音楽など、興味の幅はとても広がったです。

AK 私も、協会財務の面をはじめ、いろいろ教えていただきました。

HI 話は逸れ気味になってしましますが、西川さんが最初に心筋梗塞をやったのはコナなんです。で、ハラさんが飛行機を手配してホノルルの病院に入れ、なんとか助かった。スタンリー・ハラさんにはほんとうにお世話になったんです。

AK そもそも、なぜハワイに行き始められたんですっけ？

HI 順ちゃんは、新しいところに出かけるのが好きなんです。他の人がまだ行ってない場所。ずっとそうで、私もそうとう付き

合わせられました。オーストラリアのリザードアイランドも、最初は情報がなくて何がなんだか分からない。でも、「石井さん英語しゃべれるでしょ？」ということで一緒に行こうと誘われる。

JG 費用自己負担の通訳として連れて行かれるわけですね(笑)。

HI 与那国島も、新規開拓でした。

AK ずいぶん通っていらっしやいましたね。

HI でも私たちが出かけると、かなりの確率で天気が荒れる(笑)。飛行機が飛ばない、フネが出ない、戻れないなんてよくありました。足止めされたら、そこでそれなりに楽しんじゃうんですけどね。

JG 与那国に通い始められたのは？

HI 80年代の後半くらいじゃないでしょうか。当時、島にあるお米は陸稲で、ぜんぜんおいしくないから、お米をかついで飛行機に乗ったこともあります。

JG 岡田順三さんの業績として、語り継いでおかなければならないことは、他にありますか？

HI 記録の認定魚種に、日本の魚を入れる運動をしたことがあります。ハワイで、IGFAレプレゼンタティブの会議が行われたとき「日本の魚種でもラインクラス、ティベットクラスの認定魚

種にできるはずだよ」という話が浮上してきました。それを受けて、どんな魚種が良いかリサーチを始めたんです。まずは、ルアー釣りの対象魚としてすでに人気があったスズキ。それに、自分の情熱の対象だったインダイとイシガキダイ。これらは、あまり人気がなくて申請が上がってこないっていうのでオールタックル対象魚に格下げされてしまいましたが……。その後でマダイなどですね。築地市場にあった「お魚センター」に在籍されていた先生に、分布や最大サイズなどの情報を提供してもらいました。

JG 晩年は、カジキとともにヒラメ釣りも好んでやっていらっしゃったイメージがあります。体力の問題もあって、船釣りが中心になっていったと思うのですが。

AK 小松さんというヒラメ仲間がいらして、よく争っていましたよ。

HI カジキ釣り大会をやっている下田でも、湾口部でいいヒラメが釣れるんですって、秘密らしいんだけど。季節によっては、堤防近くまで寄ってくるそうですよ。

JG 岡田さんはずっと熱心に、海外を見習いたいとおっしゃっていました。アメリカやオーストラリアの遊漁施策が100%妥当だとは思っていらっしゃらなかったようですが、少なくとも日本よりはずっと釣り人のこと、資源のことに配慮しているので見習うところが多い、と。日本の釣りを少しずつでもよくしていきたい、という気持ちはずっとお持ちでした。

HI JGFAのタグ&リリースは、直接的にはオーストラリアの人たちから学んだことです。キャセイ・パシフィックのパイロットだったノエル・ジョーンズさん、オーストラリア・ゲームフィッシュ協会の会長らですね。彼らが日本に、その考え方と意義、そして実践法を教えてくださいました。魚体に埋め込むアンカーのプラスチックパーツすら、魚に悪影響を及ぼさない素材でできてい

るとは、なんて進んでいるんだろうと思いましたね。その後、スタンフォード大のバーバラ・ブロックさんたちが、魚の行動を詳細に記録できるアーカイバル・タグを使った調査をカジキに対して開始し、それが「グレート・マーリン・レース」という全世界イベントに発展しましたね。

JG よく言われますが「語り継ぐことの大事さ」は実感します。

HI 岡田さんは、とっても良いことを数多く立ち上げました。その話が伝わっていくと良いですね。私の感じでは、親から子にはなかなか伝わらなくて、親から孫に伝わっていくような。

JG 1世代飛ばし、ですか。あまりに直接的な関係が濃い人の間では、反発のほうが強いですかね。おじいちゃんが孫に教える、伝えるっていうのは、濃すぎない関係性が良いのかも知れません。

HI そうですね。JGFAのジュニアイベントでも、おじいちゃん層がお孫さんクラスの人たちを連れてきて欲しいですよ。岡田さんは、より大きな魚、釣ったことがない魚を釣りたいという気持ちをずっと強く持っていたと思いますが、西川さんの視点も取り入れて、釣りという行為をとりまくすべてを楽しめるようになると、もっと豊かな世界が広がっていくはずですね。

JG 私たちが提唱している「1尾の高い価値」というところにも、一回りしてつながりますね。

HI アウトドアの遊び環境は今よりも厳しくなっていくでしょうから、魚の数が劇的に増えることは短期的には期待できません。つまりは、釣果主義から脱却できなければ遊びの釣りは存在できなくなる。逆に、もっと広いところに楽しみを見いだせるようになれば、ずっと釣りの世界は続くと思っています。JGFAのメンバーも増えていくでしょう。

JG 本日はありがとうございました。



流したルアーを見つめる。心は期待感で溢れている



もちろん日本でも、カジキは機会があることに追いかけた。いつまでも、この偉大な魚たちが泳ぐ海でありますように

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジス記録 FAL =オールタックル・フライ・レンジス記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズギに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためです、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<タチウオ類> HAIRTAIL / *Trichiurus* spp.

●W-8kg(16lb)クラス ●0.60kg ●神奈川県中ノ瀬南沖 ●2024/2/25 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●第6中山丸

W

<キチヌ> SEABREAM, yellowfin / *Acanthopagrus latus*

●W-3kg(6lb)クラス ●0.50kg ●神奈川県横浜市横浜港 ●2024/3/7 ●中井 遥子 ●レギュラー会員 ●シークロ

W CR



浅野 法子 <タチウオ類 0.60kg>
指示欄付近で前あたりがあり、誘い続けていたら重みが乗ったので合わせました。引きは結構強く楽しかったです



中井 遥子 <キチヌ 0.50kg>
寒かったので魚は深い場所にいました。糸の動きがわずかに変化したので合わせてみると、キレイなキチヌがきてくれました

SHORE <岸(磯)からの釣り>

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-3kg(6lb)クラス ●2.35kg ●高知県土佐清水市 ●2024/2/3 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-6kg(12lb)クラス ●1.85kg ●高知県土佐清水市 ●2024/2/9 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-10kg(20lb)クラス ●1.60kg ●高知県土佐清水市 ●2024/2/23 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-4kg(8lb)クラス ●2.10kg ●高知県土佐清水市 ●2024/3/24 ●由岐 直久 ●レギュラー会員



由岐 直久
<メジナ 2.35kg>
初めての申請魚でした。2月上旬産卵前の魚で、よく肥えていました。いつもよりハリスを短くしていたので少しヒヤヒヤでした



<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-8kg(16lb)クラス ●2.80kg ●高知県土佐清水市 ●2024/3/2 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

CR

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●M-15kg(30lb)クラス ●2.45kg ●高知県土佐清水市 ●2024/3/16 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

FRESHWATER FISHING <淡水の釣り>

<ニジマス> TROUT, rainbow / *Oncorhynchus mykiss*

●M-3kg(6lb)クラス ●5.10kg ●神奈川県芦ノ湖箱根湾 ●2024/3/1 ●岸上 和典 ●クラブ・ゴールドンドリーム ●YAMAKI

<マルタ> REDFIN, Pacific / *Tribolodon brandti*

●M-4kg(8lb)クラス ●2.15kg ●埼玉県柳瀬川 ●2024/3/31 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR



岸上 和典 <ニジマス 5.10kg>
天気も悪く、アタリもない中で、小型を意識して管釣りタックルを使用していた時のヒットでした



竹内 尚哉 <マルタ 2.15kg>
3月31日、お初魚種のマルタに挑戦するタイミングを計りつつ釣行。激熱な瀬付きバシャバシャタイムにミノーで口を使ってもらいました

SALTWATER FLY FISHING <海水のフライフィッシング>

<キチヌ> SEABREAM, yellowfin / *Acanthopagrus latus*

●M-3kg(6lb)クラス ●1.15kg ●山口県周南市富田川 ●2024/1/6 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR



田村 紘一 <キチヌ 1.15kg>
ストリーマーにゴンと来ました



FRESHWATER FLY FISHING <淡水のフライフィッシング>

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-1kg(2lb)クラス ●1.01kg ●山口県佐波川水系 ●2024/3/24 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-10kg(20lb)クラス ●0.67kg ●山口県佐波川水系 ●2024/3/17 ●田村 紘一 ●レギュラー会員



田村 紘一 <アマゴ(サツキマス) 1.01kg>
ギョんと引くとドンときました



ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<カサゴ> KELPFISH, false (kasago) / *Sebastiscus marmoratus*

●オールタックル ●0.77kg ●長崎県五島列島防波堤 ●2024/1/16 ●平木 大士 ●グルーバーボーイズ

<ミンサーフエフキ> EMPEROR, drab / *Lethrinus ravus*

●オールタックル ●0.90kg ●鹿児島県喜界島荒木港沖水深60M ●2024/1/14 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●レオンII

<シロブチハタ> GROUPER, highfin / *Epinephelus maculatus*

●オールタックル ●4.00kg ●東京都八丈島洞輪沢漁港沖合 ●2023/12/30 ●山下 周作 ●レギュラー会員 ●勢寿丸

<ヘラヤガラ> TRUMPETFISH, chinese / *Aulostomus chinensis*

●オールタックル ●1.00kg ●東京都新島村伏浦漁港 ●2023/11/11 ●三好 健斗 ●ジュニア会員

<シロアマダイ> HORSEHEAD, white / *Branchiostegus albus*

●オールタックル ●3.82kg ●愛媛県松山沖 ●2024/1/13 ●児玉 昭二 ●レギュラー会員 ●遊漁船 ニライカナイ

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●オールタックル ●2.35kg ●高知県土佐清水市 ●2024/2/3 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

<ホウズキ> HOUZUKI / *Hozukius emblemarius*

●オールタックル ●2.50kg ●神奈川県小田原沖 ●2024/2/18 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●H2O

<メジナ> MEJINA / *Girella punctata*

●オールタックル ●2.80kg ●高知県土佐清水市 ●2024/3/2 ●由岐 直久 ●レギュラー会員

CR

<トラフグ> PUFFERFISH, Japanese / *Takifugu rubripes*

●オールタックル ●7.30kg ●愛知県伊良湖沖 ●2024/3/3 ●遠藤 優花 ●レギュラー会員 ●大進丸

W

<シロダイ> BREAM, Japanese large-eye / *Gymnocranius euanus*

●オールタックル ●2.15kg ●鹿児島県喜界島湾港沖水深50M ●2024/3/24 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●レオン II

<ヨスジフエダイ> SNAPPER, common bluestripe / *Lutjanus kasmira*

●オールタックル ●0.60kg ●鹿児島県喜界島湾港沖水深50M ●2024/3/24 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●レオン II

<マルクチヒメジ> GOATFISH, gold-saddle / *Parupeneus cyclostomus*

●オールタックル ●1.45kg ●鹿児島県喜界島湾港沖水深50M ●2024/3/24 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●レオン II



平木 大士 <カサゴ 0.77kg>

夜の満潮からの下げ潮3分位の時にヒットしました。ゴロタ石が多少ある砂地のフラットエリアでした。ドラグはフルにしめ込んでいたので、根に入られる事が無く、キャッチできました



浅野 俊吾

<ミンサーフエフキ 0.90kg>

底1mでヒット。型のわりに引きが強く、ヒットしてから取り込みまで強い引きが続き、楽しかった



山下 周作

<シロブチハタ 4.00kg>

アカハタ狙いのライトジギングで、底の方を動かしているとガリガリッという感触が伝わってきました。根掛かりかもと思ったのですがドラグが始め、大きなハタが上がってきました



三好 健斗

<ヘラヤガラ 1.00kg>

仕掛けが足元に来て、根に潜られたかなと思ったらうまく釣れました



児玉 昭二 <シロアマダイ 3.82kg>

はじめだけはかなり走り、エイカと思うほどただ重かった



由岐 直久 <メジナ 2.80kg>

久々の大型で、かつ障害物が近かったのでひやひやでした。そう見かけるサイズではありませんし、私が使った16lbはメジナ釣りでは一般的でない太さのラインかなと思います



西野 勇馬 <ホウズキ 2.50kg>

新場所開拓で、前回釣果のあった激アツポイントにて、狙い通りのホウズキをGET! サイズも大きく、大満足でした。今後は更なる更新を目指していきます!



遠藤 優花 <トラフグ 7.30kg>

ジギングで数時間私含め周りも当たりがなかったでタイラバに変更。それでも全く当たりがなかったのでトロマキを採用。モゾモゾという当たりから合わせるとぶりんぶりんという初めての引きでした。上がってくるまで全く予想のつかない動きだったのを覚えています



坂本 幸博

<シロダイ 2.15kg>

なかなか手応えの中やり取りしながら、タモ入れをお願いするために船長を探した。魚が少ない感じはしたが喜界島の安定的な海は裏切らなかった



坂本 幸博

<マルクチヒメジ 1.45kg>

合わせるとゴンゴン引き始めたので、バシなよう慎重に巻いてくると真ッ赤なマルクチヒメジ。このサイズは初めてなので嬉しかった

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レングスレコード>

<マルタ> REDFIN, Pacific / *Tribolodon brandti*

●レングスレコード ●51cm(叉長) ●埼玉県柳瀬川 ●2024/4/1 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

AL CR



竹内 尚哉 <マルタ 51cm(叉長)>

4月1日、昨日の快感が忘れられず早朝からチャンスタイム継続中で数釣りを楽しんだ。サイズ感にはばらつきがあるが、全長56cmがでたので申請しました



JUNIOR RECORD <ジュニア日本記録>

<オオクチバス> BASS, largemouth / *Micropterus nigricans*

●M/ジュニア ●4.63kg ●滋賀県奥琵琶湖大浦湾 ●2024/1/27 ●武内 成義 ●ジュニア会員 ●スキーターZX202

J

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●M/ジュニア ●15.75kg ●埼玉県利根川氷系元荒川 ●2024/1/21 ●和久津 晃也 ●ジュニア会員

J CR

<ヘラヤガラ> TRUMPETFISH, chinese / *Aulostomus chinensis*

●M/ジュニア ●1.00kg ●東京都新島村羽伏浦漁港 ●2023/11/11 ●三好 健斗 ●ジュニア会員

J



武内 成義 <オオクチバス 4.63kg>

ポイントを移動したタイミングで少し風が吹いてきて、ルアーを落としている最中に、ラインが走り出した。思いっきりフッキングをしました。とても重かったけど、釣れて良かったです



和久津 晃也 <ソウギョ 15.75kg>

数か月にわたって記録に挑戦していたが結果が出ず、ジュニア会員としての年齢が最後の日曜日、冷たい雨のなか頑張ったら釣れたミラクルの一匹です



三好 健斗

<ヘラヤガラ 1.00kg>

(事務局より: 日本記録・オールタックル日本記録のヘラヤガラとおなじ魚です。コメントはそちらをご覧ください。)

【2023年度タグ&リリース年間功労者】

ジャパングームフィッシュ協会では、資源保全につながるタグ&リリースに多大な貢献をした人を毎年表彰しています。受賞者の方からコメントをいただきましたので、写真とともにご紹介します。なお、タグ&リリース年間功労者の選出に当たりましては、タグの装着数だけではなく、その魚たちが再捕されているかも選考の際に考慮されています。また、タグ&リリース実施年数も評価の対象です。一方、カジキについては釣るだけでも難しく、それを複数タグ&リリースしたことも評価の対象となっています。選考は、釣魚保全委員会が行っています。

【2023年度T&R実績】

- (1)実施人数(トーナメント時を除く):141人(93+カジキ48)。2022年度は115人(78+カジキ37)
- (2)放流尾数:3,908尾(3,814+カジキ94)。2022年度は3,628尾(3,470+カジキ158)
- (3)再捕尾数:101尾。2022年度は95尾

【2023年度T&R年間功労者選考基準】

- (1)昨年、候補にノミネートされた人で2023年度も頑張った人。
- (2)およそ50尾以上T&Rし、なおかつ再捕実績のあった人。
- (3)数が少なく、釣るのが難しい魚、希少な魚は別立てとする(カジキ、アカメ、イシダイなど)
- (4)タグ尾数などについては地域性を考慮に入れる。
- (5)T&R推進活動にとくに貢献のあった人。
- (6)一度受賞して5年以上経過した人は改めて候補となる。

2023年度「T&R年間功労者」(表彰年は2024年)(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	選出理由
1	東京都	高筒 敦彦	ブルーウインド	2005年、2017年に受賞経験あり。スズキ49尾、T&R。再捕実績は、2尾あった。
2	千葉県	山口 徹	正会員(個人)	2011年、2018年にも受賞経験あり。ヒラマサ122尾をT&R。再捕実績は、4尾あった。
3	静岡県	田畑 悟	BLACK PERRY	BOL東日本所属。クロカジキ6尾、マカジキ4尾をT&R。
4	大阪府	中村 幸平	シマノOCEA	昨年、年間功労者候補に挙がっていた。T&Rは、スズキ37尾、ヒラスズキ31尾、クロダイ2尾、アカメ5尾、タイリクスズキ1尾、バラフエダイ1尾。再捕実績は、ヒラスズキ1尾あった。

2023年に精力的に活動された人で来年の年間功労者候補の方(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	選出理由
1	東京都	東辻 雄平	レギュラー会員	T&Rは、スズキ1尾、クロダイ310尾、キチヌ3尾の計314尾 再捕実績は、クロダイが2尾
2	神奈川県	長田 茜	レギュラー会員	T&Rは、スズキ56尾。再捕実績は、スズキ1尾
3	静岡県	小野田賢一	SOLDIRO	T&Rは、マゴチ58尾
4	愛知県	宮田 雅弘	レギュラー会員	T&Rは、スズキ10尾、ヒラスズキ11尾、ブリ1尾、ヒラメ2尾の計24尾 再捕実績は、スズキ2尾、ヒラスズキ2尾、ブリ1尾
5	大阪府	杉中 沙樹人	レギュラー会員	T&Rは、ヒラスズキ4尾、クロダイ13尾、マダイ1尾の計18尾 再捕実績は、ヒラスズキ1尾
6	徳島県	伊原 武志	レギュラー会員	2018年に受賞経験あり T&Rは、スズキ1尾、ヒラスズキ26尾の計27尾 再捕実績は、ヒラスズキ1尾
7	熊本県	高木 真也	アップストリームSAC	2009年、2019年に受賞経験あり T&Rは、ヒラスズキ2尾、タイリクスズキ20尾、その他14尾の計36尾 再捕実績は、ヒラスズキ2尾、タイリクスズキ2尾
8	大分県	原田 智昭	バホバホ	T&Rは、オオモンハタ23尾。再捕実績は、オオモンハタ1尾
9	大分県	財前 雄一郎	正会員(個人)	2013年に受賞経験あり T&Rは、スズキ1尾、クロダイ82尾、イシダイ1尾、マゴチ1尾、キチヌ6尾、コブダイ3尾の計94尾
10	大分県	平松 雅直	JX金属製錬 Fishing Club	1996年に受賞経験あり T&Rは、スズキ24尾、ブリ4尾、カンパチ1尾、マダイ5尾、キチヌ1尾、その他1尾 再捕実績は、スズキ2尾

【その他2023年度T&R活動に貢献して頂いた方】(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2023年度の実績	受賞年
1	北海道	菅原 潤	クラブ ゴールテンドリーム	クロマグロ5	16
2	北海道	加藤 達也	レギュラー会員	ブリ25、ヒラマサ8、その他1	
3	岩手県	村脇 健司	サポート会員	スズキ3、ヒラメ7	
4	山形県	星川 徹	レギュラー会員	ブリ9	18
5	東京都	助川 博也	サバロ	イシガキ2、イシダイ1	08
6	東京都	花木 喜英	正会員(個人)	スズキ25、クロダイ2、ボラ1、マダイ10	
7	東京都	丸橋 英三	サバロ	スズキ3、クロダイ7、イシガキ55、イシダイ5	01、16、23
8	東京都	江川 典男	WILD OCEAN	ヒラスズキ1	09
9	東京都	泉 勇也	マーメイドアングラーズC	スズキ265、クロダイ1、サワラ1、マゴチ5、シイラ1、マダイ11、その他8	22
10	東京都	酒井 順一朗	サポート会員	マゴチ12	
11	東京都	高野 源太	レギュラー会員	イシガキ4	
12	東京都	久保田 英	正会員(個人)	ヒラメ3	
13	東京都	本田 吉樹	レギュラー会員	マゴチ1	
14	東京都	木村 則夫	ブルーウインド	ヒラスズキ7、カスミアジ4、カンパチ103、キハダ1、ギンガメアジ138、ヒラマサ8	20
15	東京都	福岡 勝	レギュラー会員	マゴチ19	
16	東京都	原 兼重	レッドヘッダーズ	イシガキ1	
17	東京都	岡野 伸行	レインボーキャブ	クロダイ2	
18	東京都	堀江 幸雄	ファイティングロッダーズ	スズキ7、その他1	
19	神奈川県	長谷川 貴洋	レギュラー会員	スズキ5	
20	神奈川県	伊藤 義明	正会員(個人)	スズキ34、クロダイ15、マゴチ2	14、20
21	神奈川県	大久保 和弘	グルーパーボーイズ	スズキ56、クロダイ13、ヒラメ7、マゴチ1、その他1	01、22
22	神奈川県	福永 雄海	横浜ビルフィッシュクラブ	スズキ141	00
23	神奈川県	塚原 一三	マーリンマイスタークラブ	スズキ143、ブリ13、アイナメ6、ギンガメアジ3、マゴチ1、タチウオ2	22
24	神奈川県	谷口 公彦	レギュラー会員	カズミアジ3、ロウニンアジ7	
25	神奈川県	津田 雅弘	レギュラー会員	クロダイ11、イシガキ14、イシダイ1	
26	神奈川県	平松 慶	レギュラー会員	ブリ11、ヒラマサ4	04、20
27	神奈川県	濱田 裕	レギュラー会員	クロダイ7	21
28	千葉県	田村 郷	レギュラー会員	スズキ2、マダイ4	18
29	千葉県	標 信男	レギュラー会員	クロマグロ1、ツムブリ1、マダイ14、その他2	
30	千葉県	杉本 真一	レギュラー会員	スズキ1、キチヌ26	10、23
31	千葉県	猶原 正和	サバロ	スズキ73、ヒラスズキ21、ブリ4、カンパチ1、クロマグロ2、ヒラメ1、マゴチ1、ロウニンアジ1	06、19

【2023年度タグ&リリース年間功労者】

【その他2023年度T&R活動に貢献して頂いた方】(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2023年度の実績	受賞年
32	千葉県	島田 勝美	WILD OCEAN	スズキ1、ヒラスズキ14	01
33	千葉県	立川 雅敏	レギュラー会員	スズキ1、ヒラマサ4	
34	茨城県	森田 琢磨	サバロ	カンパチ2	17
35	茨城県	渡邊 洋治	カウントダウンFC	スズキ29	10、20
36	茨城県	小松 雅弘	カウントダウンFC	スズキ55マダイ1、その他1	03、14、20
37	茨城県	小松 孝尉	カウントダウンFC	スズキ1、ヒラメ11、マゴチ1	
38	埼玉県	加藤 靖暁	マーメイドアングラーズC	スズキ426、クロダイ9、ヒラメ1、マゴチ7、キチヌ3、その他3	09、19
39	埼玉県	平井 忠	レギュラー会員	ヒラメ7	
40	埼玉県	坂本 幸博	終身会員	インガキ1、マゴチ1、マダイ3	20
41	新潟県	加藤 友章	レギュラー会員	スズキ8	
42	富山県	武田 博樹	レギュラー会員	スズキ1、ヒラメ4、マゴチ1、その他1	
43	静岡県	新居 浩史	レギュラー会員	アカメ6	
44	静岡県	田畑 悟	レギュラー会員	クロカジキ1	
45	静岡県	金子 正之	レギュラー会員	その他1	
46	静岡県	服部 真司	レギュラー会員	ヒラスズキ1、クロダイ2、ヒラメ10、マゴチ1、オオニベ1	
47	静岡県	丸尾 明公	レギュラー会員	クロダイ29	
48	静岡県	伊賀上 達也	レギュラー会員	スズキ1	
49	愛知県	金子 新	レギュラー会員	スズキ1	
50	愛知県	田島 雅大	SOLDIRO	マゴチ2	
51	愛知県	長坂 理	レギュラー会員	タチウオ11、その他6	18
52	愛知県	山本 和幸	サポート会員	スズキ6	
53	三重県	稲垣 達也	サポート会員	スズキ1	
54	大阪府	和氣 恒久	サバロ	スズキ30、ヒラスズキ1、クロダイ116、ブリ6、キチヌ3	99、13、20
55	大阪府	松浦 昌治	スブラッシュ	スズキ2、ヒラスズキ4、クロダイ92、シイラ8、キチヌ18	90、91、19
56	大阪府	小西 雅樹	スブラッシュ	スズキ4、クロダイ30、ブリ1、キチヌ5	
57	大阪府	河本 行弘	レギュラー会員	スズキ51、クロダイ109、ブリ4、キチヌ1	12、23
58	大阪府	江口 太一	レギュラー会員	スズキ14、クロダイ16、サワラ2、マダイ7、キチヌ15、タケノコメバル2、その他23	23
59	大阪府	山内 一美	ファイティングロッダーズ	スズキ1	
60	大阪府	田中 大喜	スブラッシュ	スズキ8、タイリクスズキ1、キチヌ8	20
61	大阪府	高橋 健	レギュラー会員	クロダイ2、キチヌ1	18
62	大阪府	出水 鉄次	レギュラー会員	スズキ1、クロダイ3、シイラ1、その他4	



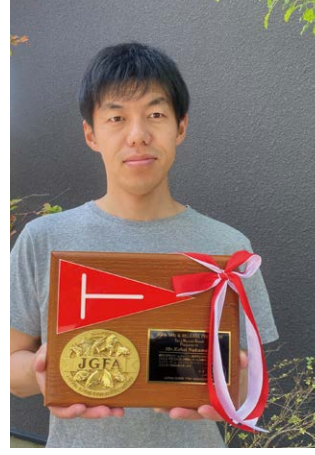
高筒 敦彦

私の場合、ショアからのスズキとヒラスズキをターゲットにしています。1年が52週なので毎週1尾くらいの数を目標にだらだら続けてきた形ですが、30年も経つと1400匹強にもなるもので、自分でも驚きます。対象魚をより知るためのタグ&リリース。現場作業は常に一人だけども、一人だけでは出来ない活動として、これからも励んでみたいと思っています



山口 徹

この度はありがとうございます。ヒラマサのリリースを外房で始め20年以上、当初はお客様に敬遠されましたが、今では多くの方が意義を理解し積極的にリリースして頂けるようになりました。再捕されることでより理解が深まったのではないかと思います。「いい釣りをいつまでも」行うため、資源の増減に留意しリリース活動を続けたいと思います



中村 幸平

3年前からコツコツ取り組んできたタグアンドリリース活動でこのような賞にご選定いただき有難うございます。ヒラスズキをメインに取り組んできて、タグガンを何度か潮で壊しながらの活動でしたが、自分で再捕できたときはとてもうれしかったです。今後も活動が続けていき、アカメやシーバスなど他魚種でも再捕があるように頑張れればと思います



田畑 悟

タグ&リリース年間功労者での表彰ありがとうございます。2023年は春先から黒潮が入り天候にも恵まれ、釣りに行く機会も多く予想以上の釣果につながったと思います。今後もカジキ釣りを楽しみながらタグ&リリースに貢献できれば幸いです

【その他2023年度T&R活動に貢献して頂いた方】(順不同)

NO.	地区	氏名	所属	2023年度の実績	受賞年
63	大阪府	前田 大介	レギュラー会員	スズキ1	
64	和歌山県	中前 悦尚	歌舞伎者	クロマグロ12	10,21
65	兵庫県	長堀 寛	スプラッシュ	ブリ1、シイラ5	05
66	兵庫県	松元 秀樹	サポート会員	ブリ1	
67	岡山県	谷口 隆浩	レギュラー会員	マダイ1	
68	広島県	森岡 秀明	レギュラー会員	スズキ1	16,23
69	山口県	松木 大輔	レギュラー会員	マゴチ3	
70	徳島県	柿田 朋哉	サバロ	スズキ6	21
71	高知県	奴田原 寿展	レギュラー会員	アカメ32	23
72	高知県	弘瀬 伸洋	レギュラー会員	アカメ4	
73	高知県	前田 尚俊	レギュラー会員	アカメ24	22
74	高知県	長野 博光	正会員(個人)	アカメ1	01
75	高知県	由岐 直久	レギュラー会員	アカメ5	
76	愛媛県	本多 恵介	ANNET (アネット)	マダイ2	
77	愛媛県	首藤 康裕	レギュラー会員	スズキ1、ヒラスズキ3	
78	大分県	吉野 仁博	バホバホ	スズキ6	20
79	大分県	景平 真明	レギュラー会員	スズキ56、ヒラスズキ3	15, 21
80	大分県	松山 雅彦	バホバホ	スズキ4、マゴチ1	

タグ&リリースを始めていただいた方をピックアップ!

小野田 賢一さん

2023年9月から活動を開始、おもにマゴチをタグ&リリース。

【タグ&リリースを始めた理由】

私は浜名湖を拠点に活動しています。遊漁船エクストリームのカプテンとして、自身の立ち上げたロッドブランド(ソルディーロ)の代表として、そしてプロアングラーとして、ソルトウォーターフィッシングは私の人生そのものになっています。そんな環境の中で、2009年に浜名湖でマゴチを釣るテクニックとして「ボトムワインド」を紹介したところ、翌年から爆発的に流行してサイズも数も釣れて、その当時の私は『釣りで釣れる量なんて大したものではない。釣りで資源が減るとは思えない』と考えていました。しかし今では、大間違いだったと後悔しています。発信力のある自分をもっとリリースを推奨していれば…。2013年あたりから顕著に浜名湖のマゴチは釣れなくなり、釣り過ぎ、キープし過ぎによるマゴチの激減は明白でした。そして10年が経過した現在もマゴチの数やサイズは戻らないことから、JGFAのタグ&リリースのデータを確認したところ、衝撃の事実を知ることになったのです。約25年で再捕獲されたマゴチはたった10本。その少ないサンプルデータでは何とも言えない部分があるのは否めませんが、みなしの移動距離が10kmを超えている個体はわずかに1本、他の9本が3km以下。多分マゴチは極端に行動範囲の狭い魚であり、一度減少すると他からの流入が期待できない魚だったのです。同じくくりとされるヒラメは数百kmも移動しているのに…。もっとマゴチのデータが必要だと思いました。また、第二の浜名湖がまたどこかで現れてしまう前にタグ&リリースの活動をすれば、バックリミット管理や小型魚のリリース推進活動に繋がると考えました。

【やってみた実感】

タグを打った魚が元気に泳いで行く姿を見ると、何とも言えない達成感と未来への期待にワクワクします。これからどこに行くのだろうか？どのくらい大きくなるのだろうか？再捕獲のデータは欲しいけど、また釣られたり網にかかったりというのも…と複雑な気持ちにもなるのが本当に楽しいです。また、遊漁船でタグを打っていると同船した他のお客さんが非常に興味を持ってきて話が弾んだり、やってみようかなと言ってくれる人もいたりでより充実した楽しいフィッシングライフが過ごせています。



加藤 達也さん

2022年2月から活動を開始。

主に長崎県対馬でブリやヒラマサをタグ&リリースするが、地元北海道でも実施。

【タグ&リリースとの出会い】

私がタグ&リリースを知ったのはJGFAアンバサダーで釣りの師匠でもある平松慶さんと一緒に遊漁船でジギングに行った時でした。平松さんは生簀で体力を回復させた魚にタグを打ち、リリースしていたのです。初めて見るタグ&リリースに手伝う事もできず、只々見ているだけだったのを今でも憶えています。

【なぜ自分でもタグ&リリース?】

ホームグラウンドである北海道オホーツク海に夏から秋にかけてブリが来るようになったのがきっかけです。この魚はどこから来てどこへ行くのか？行動ルートが知りたい。そんな思いから始めました。冬には遠征先の長崎県対馬からブリやヒラマサをタグ&リリースしています。リリースした魚が対馬暖流によって北海道で再捕される日を夢見て、これからも続けたいと思っています。



JAPAN INTERNATIONAL BILLFISH TOURNAMENT
PRESENTED BY JAPAN GAME FISH ASSOCIATION

46th JIBT SHIMODA

SHIMODA, IZU, JAPAN JULY 25-28, 2024

第46回 国際カジキ釣り大会 2024年7月25日(木曜日)～28日(日曜日)

カジキ釣り大会 (JIBT) とマリンフェスタ下田

今年も、静岡県下田市周辺で行われる国際カジキ釣り大会(JIBT)の季節がやってこようとしています。市街には黄色のイベントフラッグがなびき、アングラーやボートオーナーたちが集結するのです。釣りが行われるのは7月26日(金)から28日(日)まで。毎日、午後3時くらいから本部周辺で、カジキを釣り上げたチームのインタビューや魚の水揚げが行われます。「マリンフェスタ下田」という観光協会主催のイベントも隣接して開催されますので一挙両得。真夏の空の下、ビッグゲーム・フィッシングの雰囲気味わってみませんか？

<https://jibt.jp/>

<https://www.shimoda-city.info/mf>

釣り旅の目的地、太平洋諸国？

ジャパンゲームフィッシュ協会ともよいおつきあいがある、オーストラリアの魚類学者ジュリアン・ペバレル博士(釣り好き)は、地元のウーロンゴン大学とともに太平洋諸国の釣り産業について調査と提言を行っています。近くはグアムやパラオ、南に下ればバヌアツやバブアニューギニアというさまざまな国・地域を含む太平洋地域の諸島は、必ずしもアマチュア・アングラーのためのインフラがしっかりしているとはいえませんが、さまざまなゲームフィッシュが住み、世界的なデスティネーションに成長する可能性があります。会員の皆様も、ウーロンゴン大のアンケートにご協力願えませんか？

https://uow.au1.qualtrics.com/jfe/form/SV_a8EfAYe8XREh16G

太平洋地域での遊漁(釣り)を発展させるために、各国政府はどのような支援をすべきでしょうか？

太平洋地域の遊漁(釣り)ビジネスに関する国際アンケートに参加して、あなたの意見を反映させよう！

太平洋地域での遊漁(釣り)体験をよりよくするためには、何が必要でしょうか？

桟橋などの施設整備は、遊漁(釣り)体験をよりよいものにするでしょうか？

アンケートはQRコードをスキャンまたは以下のリンクから

こちらをクリックしてアンケートに参加
bit.ly/44rPAPK

ANCORS AUSTRALIAN NATIONAL CENTER FOR OCEAN RESOURCES & SECURITY

UNIVERSITY OF WOLLONGONG AUSTRALIA

PEUMP Pacific-European Union Marine Partnership Programme

Pacific Community Communauté du Pacifique

新企画！ フィッシングキャンプのご報告

- 日時:2024年5月19日(日)10:00～17:00
- 場所:東京夢の島マリナー(東京都江東区夢の島3丁目2-1)
- 主催: NPO法人 ジャパンゲームフィッシュ協会(JGFA)
- 後援:(公財)日本釣振興会、日本釣りジャーナリスト協議会
- 協力:東京夢の島マリナー、古野電気株式会社、株式会社上州屋、株式会社バリバス、深海魚タッチ、JGFAアンバサダー、キッチンカーの皆さん

これまで行ってきた新春パーティーの形を根本から見直し、「未来の釣りについて、参加者の皆様とともに学びたい」という気持ちを込め、今回のイベントを「FISHING CAMP」という名称にいたしました。おすすめポイントは以下のとおりです。

- ◎子どもと釣りや魚に触れ合う
- ◎気軽にキャスティング体験
- ◎釣りの楽しさとこれからについて学ぶ
- ◎釣具 × アウトドアメーカーブース出展
- ◎大型クルーザーの展示

複数のセクションに分けて、多層的なイベント構成を行いましたので、各セクションのご報告を以下にまとめてみます。

●1階ホール

・お魚つり

紙のお魚をのべ竿で釣って、優しくリリースすることを学べる体験コーナー。参加者同士でリリースの方法を工夫し、また丁寧に並べて、次の人にもいい釣りを楽しんでもらえていました。

・お魚すくい:お玉で疑似魚をたくさん取り、決められた分はお持ち帰り、残りは全てリリースするという、バグリリミットについても学べる体験コーナー。午前中から列ができていて、300名が参加。

・お魚ぬりえ

5種類のぬり絵を用意。魚模様の曼陀羅は、大人の女性も夢中。ちょっとした癒しの空間になっており、人気の絵柄は早めになくなりました。

・深海魚タッチ

たくさんの魚が並ぶ中、人であふれていました。魚を両手で持って嬉しそうに歩き回っているお子さんも。実際に深海魚を見るのが初めての方が多かったようです。

●2階会議室

・10:10～ 丸橋英三 × 猶原正和「バグリリミットセミナー」

「バグリリミット」とは、魚を持ち帰るときに数や大きさに制限を設けること。このセミナーでは、JGFAがそれを提唱するに至った経緯や、海外の現状を、法律面や罰則の実例を掲げて解説しました。現在の、日本の釣りができることを再確認しました。

・11:00～ 村越正海「釣り座談会」

幼少期から村越さんをメディアで見ている世代の参加者がお子様を連れてくるなど、幅広い年代の方が集まって満席状態。普段は聞けない釣り業界の話や深いQ&Aなど。

・12:00～ 石崎理絵 × 小菅綾香「船釣りの楽しさとこれから」

初めてのコラボなので、お互いの自己紹介から開始。マイボートで楽しんでいる石崎理絵さんの話や、未永く釣りを楽しむためのマナーや資源保全に関する小菅綾香さんの話。

・13:00～ 村田基「世界の釣りをざっくばらんに」

海外の釣行から、普通ではあり得ないような体験の数々を面白く語って頂きました。会場も満席で、皆さんは笑い混じりで聴き入っていました。

・14:00～ 徳永兼三「東京湾ポートフィッシング」

東京湾は、多様な釣りが楽しめるフィールド。環境の変化もあり、東京湾の未来や魚釣りの内容が変わっていく中で、一人ひとりがルールを守っていくことが大切というお話でした。

・15:00～ 北村秀行「ルアーフィッシングの移り変わり」

日本のルアーフィッシング創成期頃から今に至るまでのフィールドの移り変わりや、タックル、メソッドの進化などを、独特の語り口で解説して頂きました。観客も古くからの会員さんの顔が目立ち、和気あいあい。終了時間を1時間延長して大いに盛り上がりしました。

●屋外ステージ

・11:00および14:00～

「さかなのおにいさん かわちゃん」おさかなクイズショー

プレゼントが当たるおさかなクイズショーでは、「子どもたちが魚を好きになれば、未来の海はきれいになる」をモットーに、魚の興味深い生態や海の大切さをクイズ形式でお話。子どもたちの元気な声と勢いのある挙手、深い知識に、会場は大盛況でした。

・12:00～ タグ&リリース功労者賞表彰式

・12:15～ 2023沖釣りサーキット表彰式

・15:00～ 2023日本記録表彰式

●カジキ釣りボート展示

予想以上に人気があり、予約制となった体験コーナー。船上からの眺望や実際に大きなリールの付いた竿を握り、釣りの醍醐味が体感できた様子。

●おさかなクイズラリー

お菓子やグッズがもらえるラリーで、予想していた200名を上回る参加者数。JGFAの日本記録審査員であるマニアが作成した問題で、かなり難易度が高かった様子。あと1問だったのに…と残念そうな表情も見られた一方で、全問正解の博識キッズが何人もいらっしゃいました。

初開催となったフィッシングキャンプですが、来場者数は1500人を超える盛況でした。来年はさらに楽しく、多くの皆様にご参加いただけるイベントになるよう企画中です。なにとぞよろしくお願い致します。



例年新春パーティーで行っていた各賞の表彰式も、このイベントに統合いたしました



親子連れがとて目立ち、次世代アングラの成長をたいへん楽しみにできるイベント内容でした。リーダーたちがこの中から生まれてくることを期待します



ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



賛助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典
1. 賛助会員主催のイベントを後援します。(ただし後援規定に基づくイベント)
 2. 実費プラス手数料で、会社パンフ、アンケートなどを会員に発送するDMサービスをご利用いただけます。
 3. JGFAイヤーブックに紹介記事が載ります。
 4. JGFA NEWS (年4回発行の会報) とホームページにロゴマークが載ります。
 5. 代表者と担当者の2名は、JGFA及びJGFAの会員として登録されます。
 6. 代表者は、JGFAのパーティーにご招待します。

会費 1口 100,000円 (1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカー式スバゲティタグもダートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり2000円します。年間500セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様にお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名: みずほ銀行 恵比寿支店
口座名: 「タグ アンド リリース活動資金」
口座No: (普) 1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2024/5/15	長鋪 毅一郎 (TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2024/5/19	フィッシングキャンプイベント	8,100
2024/5/29	長鋪 毅一郎 (TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
合計		46,100